

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2023年度 *poco a poco* ♪

Nr. 10 2023年8月28日(月)

文責:プファイル・辰巳

## 2学期が始まって・・・

音楽室に子どもたちの歌声が戻ってきました。久しぶりにみんなと歌えるのは楽しかったようで、どのクラスも最初の授業から、のびのびと歌えていました。ピアノ伴奏を弾くのも楽しくなりました。



鍵盤ハーモニカやリコーダーを持ってきていない人が少し目立ちましたが、学校に持ってきたら、教室のロッカーにいつも置いておくようにしてくださいね。2学期は始まったばかり。学校生活のリズムに慣れて、毎日元気に過ごしましょう。

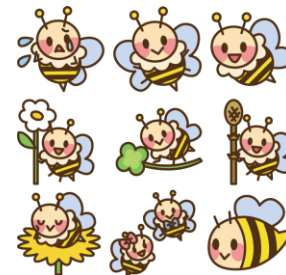
## <音楽こぼれ話 音楽の中で活躍する動物たち ⑦ ハチ>

小学校1年生の教科書にも掲載されている曲「ぶん ぶん ぶん」。歌い出しは「ぶん ぶん ぶん ハチがとぶ」。ドイツ語では「Sum, sum, sum, Bienchen summ herum.」と歌われます。「みつバチマーヤ」のお話があったり、ファッシングの仮装でもみつバチになる人が多かったりと、子どもたちに親しまれている反面、刺されると痛いので、敬遠されることもある『ハチ』。

ドイツでは森の中に養蜂場があったり、農家の片隅に養蜂箱が置かれていたりして、養蜂業を営む人が多いのかと思い、調べてみました。養蜂業に関わる農家は13万軒あるそうですが、養蜂専業農家は500軒ほどしかないそうです。しかし、ハチ蜜の種類は実に種類が多く、それぞれの草花の香りによって「菜の花」「アカシア」「ひまわり」「森の香り」「クローバー」「ラヴェンダー」「マロン」など、いろいろ種類分けされています。

お話を音楽に戻しましょう。日本歌曲では、中田喜直の「こどものための8つの歌」の中に、「ねえ蜂さん」という曲が含まれています。西洋クラシックとして、とても有名な

曲は、ロシア人作曲家リムスキー・コルサコフの作品「熊蜂の飛行」という音楽があります。ハチの羽音、飛び交う姿などを速いテンポで動く音で、みごとに表現しています。日本語では「熊蜂」と訳されていますが、原語では「マルハナバチ」だそうです。いずれにしても、人間に対して攻撃的ではないハチの代表といえますね。



さて、この「熊蜂の飛行」という作品は、独立して演奏される機会が多いので、そういう小品かと思っていましたら、実はプーシキンの原作がオペラ化された「サルタン皇帝」という作品の1部分だということが分かりました。オペラの中で、主人公グヴィドン王子が魔法の力でハチに姿を変える場面があり、そこで演奏される曲だそうです。原作では、王子さまは他にも蚊や蠅に姿を変えたりもするそうですが、リムスキー・コルサコフはハチのみをオペラの中に採用したようです。

この名曲「熊蜂の飛行」はYoutubeで検索すると、様々な楽器による演奏を聴くことができます。わずか1分半ほどの演奏ですが、そのスピード故、超絶技巧が要求されます。私は菅原淳さんによるマリンバの演奏が気に入りました。

## ちょっとだけ 演奏会情報

フランクフルト・カイザードームのオルガン・マティネー・コンサート

(12時30分から30分間のみ 5€)

期日: 9月16日(土) 10月14日(土) 11月11日(土) 12月16日(土)

アルテオーパー 10月の演目より

10月7日(土) 大ホールにて

20時から ウィーンフィルの演奏

ダニエル・ハーディング指揮

ドヴォルザーク 交響曲第9番「新世界より」ほか

10月29日(日) 大ホールにて

19時から フランス・ラジオ・フィルハーモニー・オーケストラの演奏

ソル・ガベッタのチェロ

ラロのチェロ協奏曲 ほか